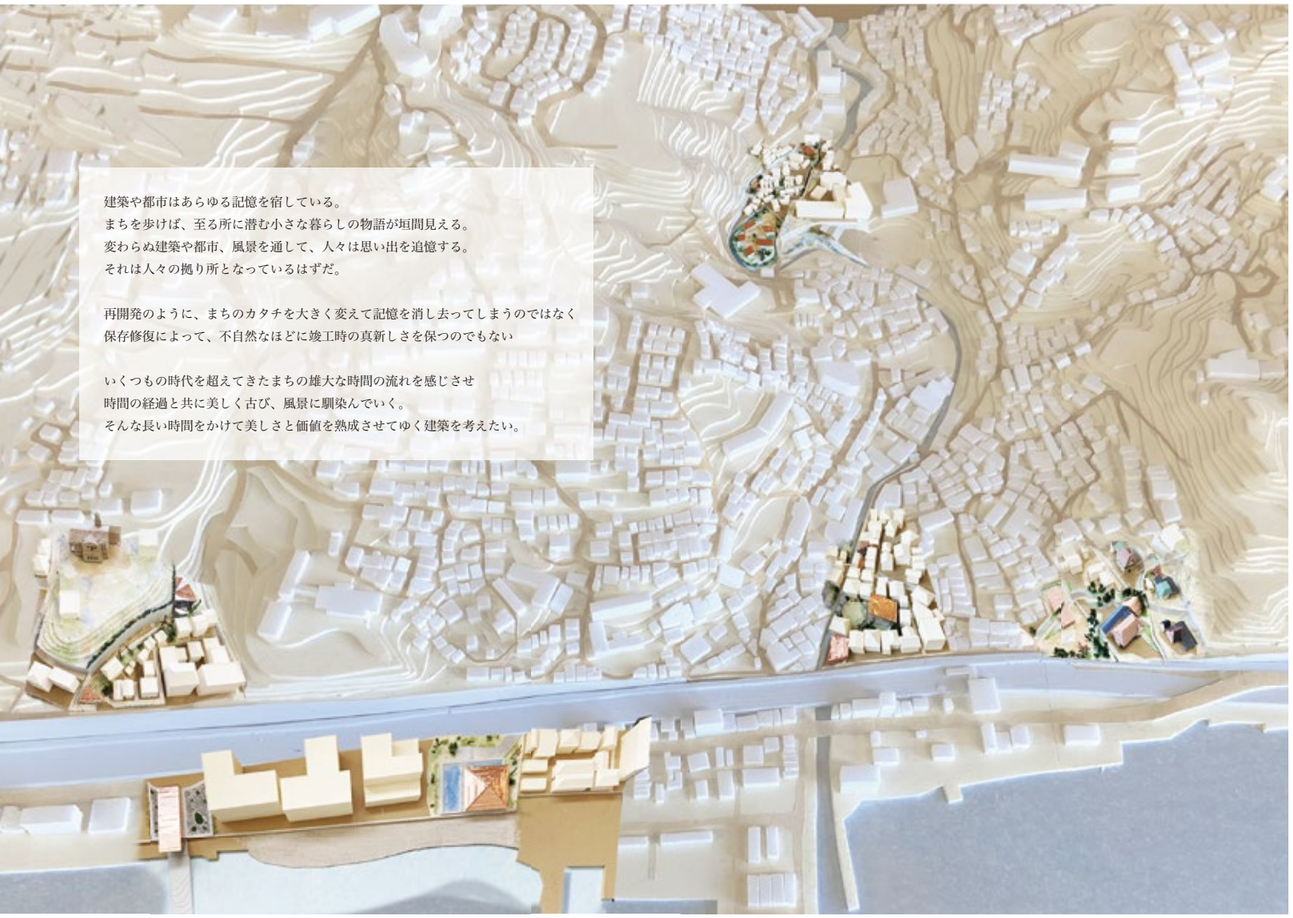


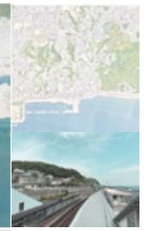
建築や都市はあらゆる記憶を宿している。
まちを歩けば、至る所に潜む小さな暮らしの物語が垣間見える。
変わらぬ建築や都市、風景を通して、人々は思い出を追憶する。
それは人々の拠り所となっているはずだ。

再開発のように、まちのカタチを大きく変えて記憶を消し去ってしまうのではなく
保存修復によって、不自然なほどに竣工時の真新しさを保つのでもない

いくつもの時代を超えてきたまちの雄大な時間の流れを感じさせ
時間の経過と共に美しく古び、風景に馴染んでいく。
そんな長い時間をかけて美しさと価値を熟成させてゆく建築を考えたい。

1．敷地＿＿神戸市垂水区塩屋町
「開発から取り残されたまち」

海に迫るような六甲山の西端と、外国人住宅地がある
通称「ジェームス山」と呼ばれる小さな山に挟まれるまち。
風光明媚な斜面地で、戦前に外国人が移り住み、洋館や邸宅が建てられた。
戦災や震災の被害も小さく、複雑な地形であるために
開発が行われず、今でも古い町並みが残っている。



塩屋のあちこちに
時代を超えて
存在している風景

多い時で 70 軒ほどあった
洋館のほとんどは失われ
6 軒のみ現存している。

水島あかね・浅見雅之・玉田浩之
「地域資産としての近代住宅の
保存継承に関する研究
ー神戸市塩屋を対象としてー」
(2016) より

洋館や
和洋折衷の邸宅

ジェームス邸　旧グッゲンハイム邸　旧北山邸　旧ライオンス邸

細く狭い
くねくね路地

商店街（田仲とうふ前）　（クリーニング屋前）　狭い階段路地　住宅のすきまの路地

海と山の
風景

海に向かう道　海と山の際間を走る電車　淡路島が見える坂道　街と海と淡路島

2．リサーチ＿＿公共空間になっている洋館

まちの歴史空間を公共空間として使う

歴史空間
記憶を宿す場所
（まちの雄大な歴史を通して
自分の居場所を再確認する）

×

公共空間
まちの人々の居場所
（公民館や児童館、図書館など）

帰属意識を持つ場所

これからの公共施設は
従来のように、機能的に存在しているだけではなく
＿まちの人々の心理的な居場所になること
＿まちへの愛着を深める場所になること
そして、それによって
＿まちの人々に愛され続ける場所になること
が必要だと思う。

現存する洋館のうちのひとつ、旧グッゲンハイム邸は
地域の音楽イベントやヨガ教室、結婚パーティーなどに使われている。

歴史空間を
使い続ける

歴史を
受け継ぎ
守ること

保存された歴史建築を観賞するのではなく、
まちのなかで生き続ける歴史空間。
まちの人々で使い続けることによって、
建築は維持され
人々の意識の中にもあり続ける。

3．分析＿＿庭園の公共性とまちの文化

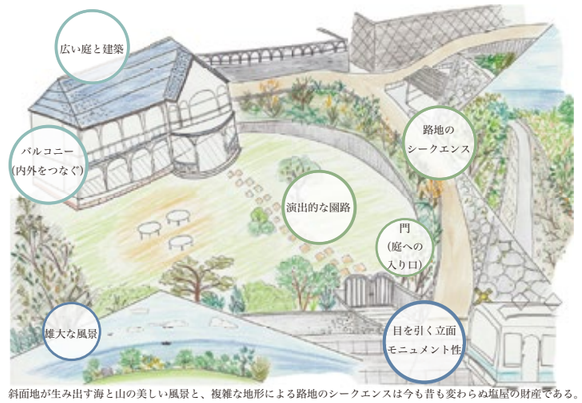
旧グッゲンハイム邸がまちの公共空間になり得た空間的要因が庭園にあると考えた。

社交場の庭で
土地の魅力を
共有する

集う空間

印象的な
風景

空間への
没入感



斜面地が生み出す海と山の美しい風景と、複雑な地形による路地のシークエンスは今も昔も変わらぬ塩屋の財産である。
そして、今も昔も人々が集う社交場として庭のある空間を用いていることはこのまちの文化と言える。

4．提案＿＿まちに点在する追憶の庭園

まちに隠れている 歴史

まちは小さな歴史の積み重ねで出来ている。
洋館だけではない、地形や民家にあらゆる歴史が隠れている。
この土地で人々が暮らし続けてきた雄大な時間の流れの中で
失われてしまったり、見えづらくなってしまったり…
隠れてしまった歴史にもう一度意識を向ける。

×

場所と対話する 庭園

歴史を追憶できる場所に、庭園をつくる。
庭園をめぐり、雄大な時間の流れを感じ取る。
庭園は芸術、知の集積、メッセージを発する存在である。
庭園の入口から路地を抜け、奥へと進むにつれ、次第に精神も庭に没入してゆく
歴史を通じて自己を再確認し、繰り返し訪れることで自らの記憶を宿す。

×

人々の居場所になる 公共空間

庭園をまちの人々の公共空間として使う「庭園型公共施設」
帰属意識を持つ物質的・心理的な居場所
まちの記憶を宿す歴史空間を公共空間としてまちの人々が使う。
公共空間はまちの文化を育み、街への帰属意識を高める場所をとして
人々の心理的な居場所になる。

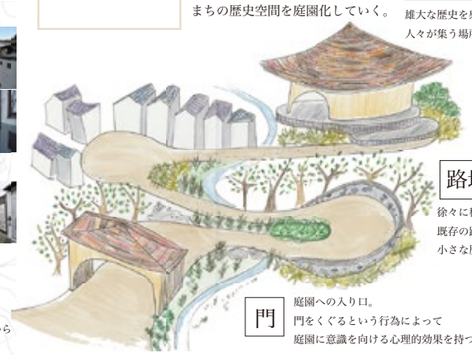
全体計画

点在する歴史空間の全てが
計画対象地になり得る。
今回はケーススタディとして
５箇所を選び設計する。

庭園の構成

各場所の特性に合わせて、
３つの要素を取り入れることで
まちの歴史空間を庭園化していく。

記憶のお堂
雄大な歴史を感じさせるための空間。
人々が集う場所にもなる。

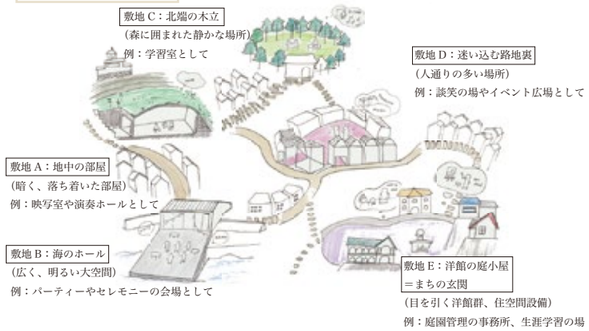


路地
徐々に移り変わる風景を楽しむ。
既存の路地に宿る
小さな歴史を追憶する。

門
庭園への入り口。
門をくぐるという行為によって
庭園に意識を向ける心理的効果を持つ。

庭園型公共空間

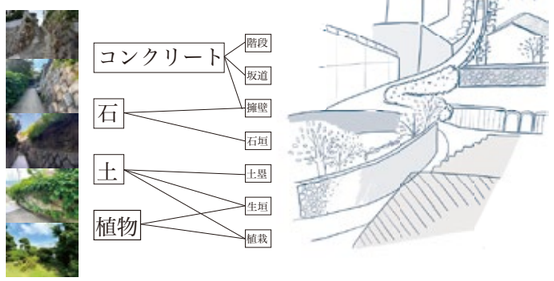
まちの人々の活動場所や居場所である
公民館や児童館、図書館に代わる公共施設を提案する。
まちに点在する庭園空間の特徴に応じて、活動場所を選ぶ。



経年変化が美しい素材

まちの歴史を紡ぐことを目的としている庭園には
「経年変化が美しい」素材を用いることで、何十年後かの未来まで
時代を超える価値を持つことを目指す。

3）斜面地を細かく造成する「空間的ランドスケープ」の素材



1）空き家や空き地を庭園化する路地のデザイン

（1）複雑な斜面地は「再建築不可」の土地が多く、空き家や空き地のまま放置される場所が多数ある。

（2）それらの「まちの資源」を巻き込むように路地を設計する

（3）空き家や空き地を庭園に巻き込んで活用していくことで、民家の小さな記憶も受け継ぐ

2）庭園どうしをつなぐ道は、まちという大きな庭の園路である

（1）まちに庭園が点在している

（2）庭園どうしをつなぐ道を園路として捉える。

（3）まち全体が大きな庭園であり、まちの全てが歴史と捉えられる。

まちに点在する庭園をめぐりながら、このまちの歴史と魅力を発見していく。

4）時間の経過を感じさせる素材

銅板葺

新しい銅板は光を反射する　赤褐色 → 次第に落ち着いた　褐色から黒褐色になる → 銅錆が出てきて　緑青色になる

一般社団法人日本銅センターホームページより

古くて新しい風景を印象的に魅せる　→　やがてまちの風景として馴染んでいく

地中の部屋

敷地 A：ジェームス邸の擁壁沿い

歴史：

塩屋に外国人住宅地を開発した英国人
ジェームスの旧邸宅が小高い丘の上に現存している。
旧ジェームス邸は結婚式場やレストランして活用中。

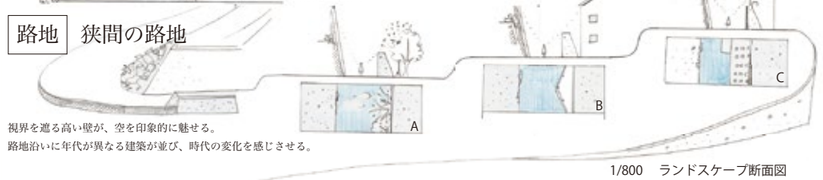
洋館があったことで戦災を免れたと言われており、
戦時中はこの擁壁沿いに防空壕を掘っていた
という歴史から、
ここに地中の部屋をつくる。

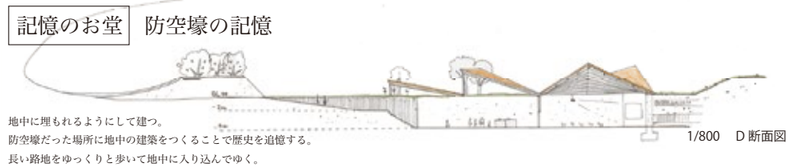
空間の特徴：

長く、静かな、擁壁の狭間の路地
暗く、落ち着いた大空間

用途：

映写室や舞台芸術、演奏ホールとして





海のホール

敷地 B：漁港のとなり

歴史：

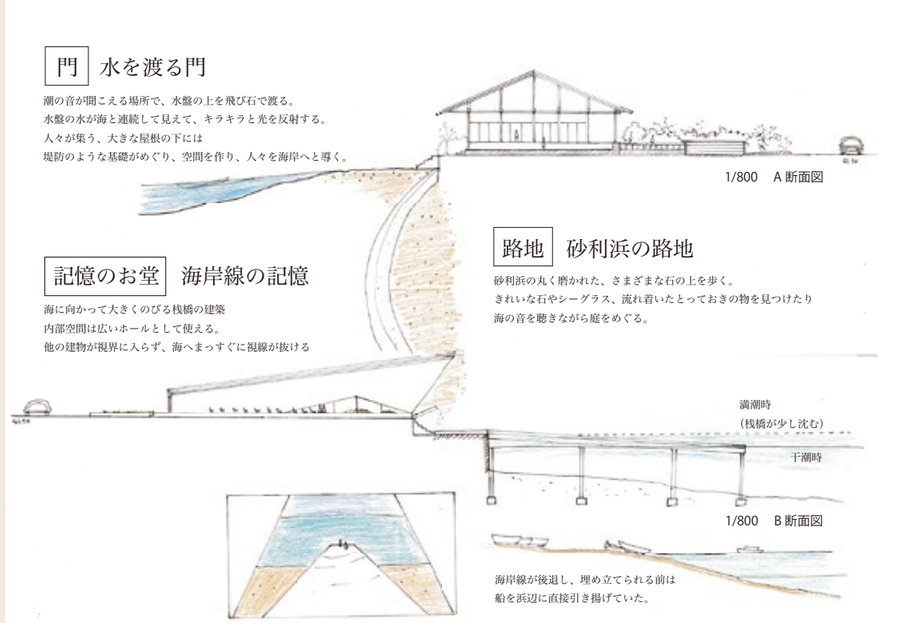
かつては海沿いに外国人のビーチハウスや
リゾートホテルが立ち並び
塩屋の村の人々も海での娯楽を楽しんでいた。
近年は、海沿いの幹線道路の拡大と
マンション開発が進み
海と暮らしが断絶されてしまった。
そこで、海のそばで過ごす空間をつくる。
桟橋の先端は後退してしまう前の
昔の海岸線の位置を示す。

空間の特徴：

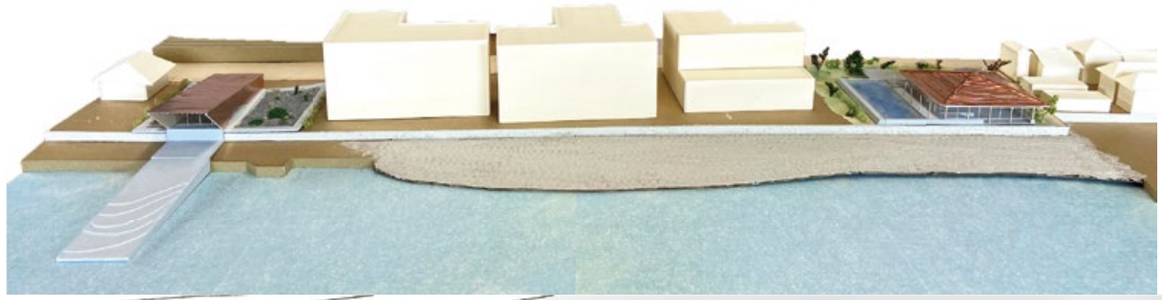
大きな空間、音がよく響く

用途：

パーティーやセレモニー
潮の音で気持ちを落ち着かせたいとき



『塩屋百年百景』より 昔の海岸の様子



北端の木立ち

敷地 C：小学校周辺

歴史：

かつて塩屋小学校の周辺はまだ住宅地開発が行われておらず
森に囲われるように小学校があった。
塩屋村の北端だった場所である。

今では北に大きくまちが広がっていて、その発展の歴史を
追憶できるように小学校周辺に木立ちと共に群生する建築をつくる。

空間の特徴：

子供たちが多い場所
森に囲まれた静かな場所
蛇行する川や、谷底の斜面によって地形の変化に富んでいる。

用途：

学習室、託児所、子育て教室
文化教室、レクチャー

落ち着いた環境と、子供たちの遊び場

記憶のお堂　北端の森の記憶

1/1200　A 断面図

植物に囲まれた六角堂
放射状に広がる大きな屋根は
枝葉を広げた樹木の下のような空間

1/1200　B 断面図

1/1200　南立面図

路地　ウチ庭の路地

住宅のあいだを抜ける路地を中心に庭を広げる。
庭に面した住宅は、学習塾や絵画教室などの
学び舎に変わっていく。

1/1200　C 断面図

門　森の玄関

1/1200　東路地側立面図

森の学び舎となっている木立の中に入っていく門。
幹線道路に沿って湾曲する壁の切れ目から
森へと入ってゆく。

1/1200　D 断面図

1/1200　西道路側立面図

記憶のお堂　動く川の記憶

この川は元はもっと小さなカーブで流れていた。
川が大地を削り、堆積し出来上がった地面の形。
土塁を作り、その輪郭を空間化する

1/1200　E 断面図

1/1200　F 断面図

塩屋の路地商店街の様子

塩屋百年百景より

迷い込む路地裏

敷地 D：路地道商店街の裏

歴史：

傘をさしたまますれ違えないほどの狭い路地にある商店街。
範囲は縮小したが、今でも塩屋の生活を支えている。

狭い路地に面するため再建築不可の土地が多い。
商店の裏に増えている、空き地や空き家を活用して
路地裏に迷い込むような庭園をつくる。
路地裏は昔から共同水道場など、交流の場だった。

空間の特徴：

駅前で人通りが多い
商店街との連携ができる

用途：

談笑の場や、イベント広場として

まちのあらゆる抜け道のような路地が
広場のような庭園につながっている。
お気に入りの路地を見つけたり、
いつもとは違う道を通って見たり
まちの魅力を探索するようなワクワクがある。

記憶のお堂　憩いの場の記憶

茶室と茶庭

路地裏に共同水道場があったころ
水道場に集まっては、お茶とお菓子で休憩していた。
仕事や子育ての合間に、ちょっと一息つくための庭。

1/800　B 断面図（茶室と茶庭）

茶庭への入り口は
商店街に軒を連ねている

遅く狭い路地が庭園の一部になることで、
空き家がカフェや自転車置き場として
活用される

目の前の小さな庭
川の対岸の庭
奥に見えるジェームス山
近景、中景、遠景が重なり合う庭園

路地裏に人々は集い、交流する。
それを迎え入れるような大屋根をかけ
その下に路地が入り込んでいる。

記憶のお堂　路地裏の記憶

広場と大屋根空間

1/800　A 断面図

路地　抜け道の路地

広場に向かっていくつかある路地を抜けると
そこが交流の場になっている。
あちこちから人が顔を覗かせ世間話をしたり
まちの相談事をしている。

門　路地に迎える

細い路地に、人を迎え入れるような
建築の屋根をくぐると
路地へと誘い込まれる。

1/800　＜路地に迎える門＞南側立面図

洋館の庭小屋

敷地 E：４つの洋館周辺

歴史：

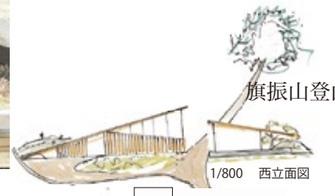
１００年以上この土地に建つ洋館と邸宅が４つある。
複雑な土地造成によって、生まれた複雑な路地から
風景を楽しめる場所がいくつもある。
ここから見える風景は 100 年以上前から
時代を超えて愛され続けてきた。
風景と路地のシークエンスを楽しむ小屋をつくる。

空間の特徴：

狭い坂道路地から見る美しい風景
あちこちの邸宅が持つ庭
目を引くデザインの邸宅の数々

用途：

イベントホール、お茶会、結婚式、ゲストハウス
まちの玄関、応接間として

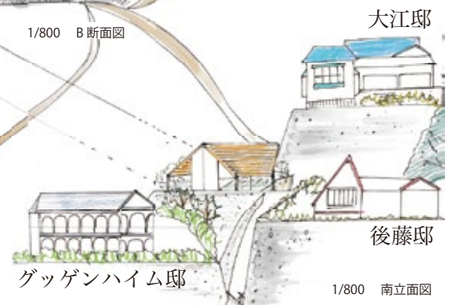


記憶のお堂　風景の記憶

４つの洋館の隙間を縫うような
細い坂道路地の交差点
洋館を使いこなすためのお茶会セットや
朝食を販売するキオスクがある

門　山の入り口

山の後線に沿うような屋根
街と山の境界
高台から街を一望する絶景が広がる



路地　邸宅ゲストハウスの庭

共同リビングの庭

空き家になった邸宅や、あまり使われていない別荘を
ゲストハウスとして貸し出す。

門　地形を歩く

ここを超えると、途端に地形が急峻になる。
複雑な地形によって再開発されずに残った
古いエリア一帯を楽しむ。